

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902611		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホームやすらぎ (ユニットやすらぎ)		
所在地	旭川市東旭川町下兵村254番地の3		
自己評価作成日	平成25年1月11日	評価結果市町村受理日	平成25年2月12日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902611-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者個々のできる力を見極め、能力に応じた介助(身体介助の他、食事形態や声かけの工夫)を行ない、後片付けの手伝いをしていただくなど自立支援に努めている。また、それぞれのペースを尊重しながら、入浴や食事の時間をずらすなどこめな対応を心がけている。
- ・職員が年間の個人目標・行動計画を立てて各自の課題に取り組み、研修の参加や自己学習での勉強会を主体的に行なう体制ができている。
- ・心身の状態変化に早期に対応、関係機関と連携を取り受診援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- <職員の研修の機会の確保>**
法人内での年間研修計画に沿った研修会や事業所内でスタッフが主体となった勉強会の開催等職員の段階に応じた内部研修の機会を確保していると共に複数連携事業やターミナルケアなどの外部研修参加をしている。また、個人毎の目標や行動計画を立て、理念達成の為の具体的目標を設定して「振り返りシート」で、そのレビューを実践し、改善の機会に活かしている。
- <地域との連携>**
中学生の体験学習や舞踊等のボランティアの受け入れ、定期的に発行する「グループホーム新聞」で日常の生活の様子や事業所の取り組みを町内会へ回覧したり、屯田ふれあい交流会や冬まつり等の地域の行事参加や地域交流会の開催を通じて地元の人々との交流に取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	1. ほぼ全ての家族と
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない	4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある	○ 2. 数日に1回程度
		○ 3. たまにある	3. たまに
		4. ほとんどない	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	1. 大いに増えている
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが	○ 3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない	4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 職員の2/3くらいが
		○ 3. 利用者の1/3くらいが	○ 3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 利用者の2/3くらいが
		○ 3. 利用者の1/3くらいが	○ 3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての家族等が
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が	
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自己評価を通じて、尊厳を大切にすることの意味をあらためて考える事ができた。原点に立ち返って入居者に向き合うように努めたい。	地域密着型サービスの意義を踏まえた尊厳を大切に事業所独自の理念をつくりあげ、その達成の為に理念について話し合い、目標を設定して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加したり、地域交流会を行ったり、中学生の体験学習の受け入れ、GH新聞を発行しているが、日常的な交流は少ない。	中学生の体験学習や舞踊等のボランティアの受け入れ、定期的に発行する「グループホーム新聞」を町内会へ回覧したり、屯田ふれあい交流会や冬まつり等の地域の行事参加、地域交流会の開催を通じて地元の人々との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生体験学習や見学の受け入れ、また運営推進会議の中で認知症の方の理解をしてもらえるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組みについて報告したり、課題について話し合い頂いた意見を参考にマニュアルの整備やサービス向上に活かしている。会議の内容を議事録で掲示する等して各スタッフにも周知徹底していきたい。	2ヶ月毎に運営推進会議をし、利用状況や緊急時の避難訓練等具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて生保ケースワーカーや指導監査課と連絡をとったり、報告書を提出している。運営推進会議にも出席していただき、施設の取り組みについて理解していただいている。	市担当者及び包括支援センター職員とは、研修会の実施や日常業務を通じた情報交換で連携を深めるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員が中心となりアンケート、マニュアルの穴埋めチェックを実施。身体拘束や不適切なケアについて勉強し周知徹底を図っている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止委員会や内部研修会開催で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の振り返りシートを2ヶ月に1回記入し見直す機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している利用者もあり、外部の研修やホームでの勉強会で知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は、文書と口頭でポイントをおさえながら説明、理解されたか確認をとりながら行なっている。状況に応じて後日再度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置、利用者との会話の中で要望を聞いたりしている。アンケートを実施し、利用者・家族の満足度や思い、意見を聞きケアに生かしている。	事業所独自の家族等アンケートの実施や苦情等の意見箱を設置し、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるようにしている。また、市町村等の相談窓口の啓発ポスター等も掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでの話し合いを設けており、業務内容について提案意見交換して、業務の円滑に努めている。	毎年個人面談を実施し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備に努めており、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しその職員にあった研修を推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得の機会を促し、経験年数や職種に応じた法人内や外部研修参加を考慮している。また、施設内でスタッフが講師となって勉強会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修、地域包括支援センターの合同研修などに参加して、交流の機会を作っている。また、ケアマネ同士の研修で意見交換をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	地域連携部からの情報を元に、本人の不安や希望を汲み取り、席など配慮し、安心できる環境作りに努めている。担当スタッフも初期からの信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族と話しをし、困っていることや不安なこと話しをし、安心してもらえるようにしている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式記入に家族も加わって頂き、情報を得て、必要とする支援を見極め対応に努めている。必要に応じ、地域包括や関係機関、ケアマネと連携を取れるようにしている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんと出かけたり、一緒にいる時間を大切にしている。また、日々の会話の中でも教えてもらっていることも多い。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人からの要望を家族にも伝え、スタッフと共に支えている関係を築いていく努力をしている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友達など来られた時には、自室でゆっくり話をしてもらい、電話の希望もあれば行っている。	本人がこれまで大切にしてきた友人・知人の訪問支援や散歩・買い物など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	申し送り等で情報を共有し、無理の無い付き合いが出来るようにし、自室で過ごすことが好きな入居者には孤立しないように声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり契約が終了していても、病院と連携をとって状態を把握し、家族の相談支援するよう努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、本人の希望、意向について把握し、家族からも情報を得ている。また、本人の言動、表情に留意し思いを引き出せるよう心掛けている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握にセンター方式を活用している。また、外食やお祭り見物、誕生会等楽しみごとや気晴らしへの支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人や家族から継続的に情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式や24時間シートを活用して生活リズムの把握をしている。日々のコミュニケーションを積極的にとり、状態の変化にも対応できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を汲み取り、一人一人の課題、ケアのあり方をケアマネ、スタッフが話し合い現状に沿ったケアプラン作成に努めている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人や家族、医師・看護師、サービス担当者会議で職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートの活用でおおまかな情報を共有し本人の言動や様子スタッフの気づきを中心に記録して申し送り、モニタリング時活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズの状況に合わせて、家族、医療関係者と相談しリハビリの必要性があれば利用したり、行きつけの美容院利用の援助をしたりと柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花菜里ランドや旭山動物園へ外出支援を行い、郷土に触れ尚且つ、地域資源を生かした豊かな暮らしを行なっている。が、本人の意向で行なえてない方もいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者個々の疾患に応じて専門のかかりつけ医で診察が受けられるよう支援し、各医療機関と連携をとっている。又、専門医受診の時には家族、本人の希望を聞くようにしている。	常勤看護師と医師の連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、母体医療法人と各医療機関の連携が密に行われていると共に本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々暮らしている中で、いつもと違う変化などの気づきがあれば24時間体制で看護職員へ報告、相談を行い、その状態、症状にあった適切な対応を行えるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供書を提出している。お見舞いに行ったり病院関係者や家族と情報交換を行なっているのは、管理者や一部スタッフに限られており、状況を把握できていないスタッフもいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化、終末期のあり方について出来ること、出来ないことを説明し家族、本人に意向の確認をしている。重度化の際には家族、本人へ報告、相談を十分に行い、専門医とも連携し方向を決めるよう努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員による救急講習会を行い、実践力を身に付けている。更にマニュアルを作成し見える所へ配置し急変や事故発生時に迅速に対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルをフローチャートにして作成しており、利用者の状態に合わせた避難方法や順序について、都度見直し修正している。	スプリンクラーや通報装置等の整備が完備し、緊急時に備えている。また、年2回以上の火災避難訓練や防災マニュアルを整備している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	アンケートや2ヶ月に一度実施している振り返りシートを活用している、また介助や誘導の声掛けは周囲に配慮した声掛けをしている。	身体拘束廃止委員会や内部研修の開催で、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知し、職員の振り返りシートを活用して不適切なケアがないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、入居者の思いや希望を見つけている。満足度アンケートを実施している。場面場面で自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、その日の状態によっては日課を押し付けるのではなく、休養を取っていただいたり、希望を聞き自室で過ごしてもらったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日化粧や髭剃りをされ、外出時はおしゃれをして楽しめる。また希望にて訪問美容サービスを受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力に応じた食器を選択、苦手なものや制限食のある方には代替のものを提供している。外食では、自分の好きなものを食べて頂いている。下膳は個々の力に応じ、行って頂いている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に準備や片付けをしている。また、外食など楽しみごとへの支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者から食材の配送を受け、栄養のバランスの取れたメニューで提供している。食摂や嗜好に応じて食事形態を工夫している。また、水分も病気や体調に配慮し好みのものを飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助を行っている。又、本人希望時等状態に合わせ歯科受診も行い、口腔ケア指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせた排泄支援を行い、その人に合わせたオムツ類を使用。また自立されている方も自尊心に配慮した声掛けを行い、汚染の把握に努めている。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。また、時節柄 感染症への対策に特に重点を置いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の氷水の提供や、水分摂取の声掛けを行い、体操やリハビリなどで身体を動かすよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望がある方は、その希望に合わせて入浴をしている。異性介助を嫌う方は同姓のスタッフが介助している。また、突然の入浴希望も出来る限り対応している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したいときは自由に居室で休んで頂くが、昼夜逆転にならないように声掛けをしている。不眠時は夏はアイスノン希望がある時などに提供し工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携を取り処方の内容を確認し、変更時は記録や申し送りして周知、状態の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事への参加、誕生会を開き、ケーキやお祝いのカードを渡し喜んで頂いているが日々の生活の中でレクや趣味活動がなかなか出来ない。嗜好の面では缶ジュース等健康状態に注意しながら自由に購入し飲用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	声掛けをしても外出を好まない方が殆どだが、レク外出や買い物の機会を利用し外出支援に努めている。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物、旭山動物園や花菜里ランド等戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、外出レクや外食等で普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、支援に努めている。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じ本人の希望を汲み取り、自己金銭管理出来るように支援している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いたり、希望時には友人や家族に電話を掛けて頂き、交流を持てるよう支援している。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のストレスにならないように照明や温度は希望に添い調節を行い、ホールには季節に応じ飾り付けを行い四季を感じられるようにしている。	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。また、リビングや廊下の壁には、行事参加の写真や習字等季節毎の飾りつけが行われ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き独りになれたり、夏にはテラスに椅子を置き、日光浴をして頂いている。ホールのソファの配置も工夫し、入居者同士会話をされ、過ごされている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族とよく相談し、自宅からなじみの家具を持ってきてもらっている。家族の写真等を飾る等、居心地良く過ごしてもらう工夫をしている。	居室には、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれていたり、家族の写真等が飾られて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋・トイレ・浴室に表札を入居者の目線に合わせつけている。本人に自分の部屋だとわかるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902611		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホームやすらぎ (ユニットこもれび)		
所在地	旭川市東旭川町下兵村254番地の3		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年2月12日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902611-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者個々のできる力を見極め、能力に応じた介助(身体介助の他、食事形態や声かけの工夫)を行ない、料理の下ごしらえの手伝いや本の朗読をしていただくなど自立支援に努めている。 また、それぞれのペースを尊重しながら、入浴や食事の時間をずらすなどこまめな対応を心がけている。
- ・職員が年間の個人目標・行動計画を立てて各自の課題に取り組み、研修の参加や自己学習での勉強会を主体的に行なう体制ができている。
- ・心身の状態変化に早期に対応、関係機関と連携を取り受診援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	1. ほぼ全ての家族と
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない	4. ほとんどできていない
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある	2. 数日に1回程度
		3. たまにある	○ 3. たまに
		4. ほとんどない	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	1. 大いに増えている
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが	3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない	4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 職員の2/3くらいが
		○ 3. 利用者の1/3くらいが	○ 3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 利用者の2/3くらいが
		○ 3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が	
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての利用者	1. ほぼ全ての家族と
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない	4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日ある	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある	2. 数日に1回程度
		3. たまにある	○ 3. たまに
		4. ほとんどない	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. ほぼ全ての利用者が	1. 大いに増えている
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが	3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない	4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 職員の2/3くらいが
		○ 3. 利用者の1/3くらいが	○ 3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 利用者の2/3くらいが
		○ 3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自己評価を通じて、尊厳を大切にするこの意味をあらためて考える事ができた。原点に立ち返って入居者に向き合うように努めたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内へのGH新聞新聞の配布、地区行事への参加、地域交流会の開催、ボランティアの活用などで交流を図ってる。地域の商店に行き来したりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生体験学習や見学の受け入れ、運営推進会議の中で認知症の方の支援への理解をしてもらえるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組みについて報告したり、課題について話し合い頂いた意見を参考にマニュアルの整備やサービス向上に活かしている。今後は会議の内容をスタッフにも周知して意見交換をして行きたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて生保ケースワーカーや指導監査課と連絡をとったり、報告書を提出している。運営推進会議にも出席していただき、施設の取り組みについて理解していただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員が中心となりアンケート、マニュアルの穴埋めチェックを実施。身体拘束や不適切なケアついて勉強し周知徹底を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	振り返りシートを活用し、虐待の芽を摘み取るような努力をしている。また、委員会の内容をミーティングで話したり議事録をみやすいところに掲示し周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加している。またスタッフ主体の勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は、文書と口頭でポイントをおさえながら説明、理解されたか確認をとりながら行なっている。状況に応じて後日再度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット内に意見箱を設置。面会に来所された時など、ご家族の要望等あれば傾聴を心掛けている。また、ご家族、入居者さんにアンケートを実施し意見を頂きケアに活かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ミーティングや個人面談を行い、職員の意見を聞くよう努めている。年間を通して必要な物品購入について、法人関係者と相談する体制が出来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備に努めているが、退職や異動後のスタッフの補充が少なく年休が取りにくい状況である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格所得の機会を促し、経験年数や職種に応じた法人内や外部研修参加を考慮している。また、施設内でスタッフが講師となりミーティングで勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修、地域包括支援センターの合同研修などに参加して、交流の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	地域連携部等からの情報を元に、本人の思いや不安な事を汲み取り、安心して過ごせる関係作りに努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係機関・ケアマネと連携をとりながら、ご家族の不安や要望に耳を傾け、把握出来るよう努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式シートに記入して頂き、出来る限りの情報を得て、必要としている支援を見極め対応に努めている。地域包括や関係機関・ケアマネとも連携をとるようにしている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事やレクリエーションを楽しんだり、暮らしの中で共にいる時間を大切にしている。人によっては対応に困惑する場面もあるが、会話の中で利用者から学ぶ事はとても多いと感じている。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議や面会時に、ご家族と情報交換したり悩みを聞くなど、共に本人を支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会が少なくなっている方もいるが、思い出の場所や友人等の話を聴くようにしている。面会に来られた際は、自室でゆっくりと過ごして頂けるよう、お茶出しにも配慮をしている。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファの席の配置など苦手な相手等を職員は把握し利用者同士がより良く過ごして頂けるよう配慮している。又、声掛けし絵本を読んでもらったり、工夫し関わって貰えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	心身状態の変化で入院となり利用終了した方も、病院と連携をとり状態を把握し、ご家族の相談や支援に応じている。また、退居されたご家族から手紙もいただいている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や言葉に注意し思いを引き出すようにしている。センター方式シートを活用しながら、暮らし方の希望・意向について把握し、自ら伝えられない方はご家族から情報を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人やご家族から継続的に情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し生活リズムを把握。入浴の順番や外出の希望を聞いたり個々のペースに合わせている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認しながら、課題やケアのあり方について、ケアマネと看護師・スタッフが話し合い、現状に合った看護計画を作成するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを活用し、日々の気づきや工夫を記録しやすくしている。また、工夫内容を送りノートに記載、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、外出支援・かかりつけ医の受診介助等対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の志向に応じ、地域行事やお祭りの参加、町内の農園の訪問、買い物や外食を楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診支援や、疾患に応じて専門医での診察が受けられるよう、各医療機関と連携をとり支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの気づきを報告し、受診内容を記録や口頭にて報告して情報交換を行ない、サービスを提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供書を提出したり、お見舞いに行き病院関係者や家族と情報交換を行い安心して治療出来るよう関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際は意向確認を行い状態の変化が予測される場合での施設で出来ること・出来ないことを説明している。状態変化に応じ家族と話し合い記録に残している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し定期的に勉強会を行ったり、法人の勉強会に参加している。また、毎年消防職員による救急講習も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル基準を見直して見やすいところに提示し周知に努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場面によっては対応が難しいところはあるが、丁寧な言葉かけや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話からやりたい事や話を引き出し、訴えられない方には選択肢を出し自己決定出来る様に支援している。満足度アンケートを実施し、ケアに活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行き届かない所もあるが、個々のペースを大切にしよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝化粧や髭剃りをされ外出時にはおしゃれをして楽しまれている。一緒に化粧品を買いに行ったり、その人らしいおしゃれができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	偏食や禁食は代替えの物を提供している。季節や年中行事のメニューを取り入れたり、誕生日には特別食も作って提供している。又、配膳、下膳、食器洗いは一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者から食材の提供を受け栄養バランスに配慮したメニューを提供。個々の好みや能力に添った食事形態にしている。水分も体調・既往歴を考慮しつつ好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状況に合わせ口腔ケアの声掛け介助行ったり、希望・状態に合わせ歯科受診・訪問診療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを活用し排泄パターンを把握し、尿・便意の無い方でも座位可能な方は誘導等行い失禁による不快感を減らすように支援している。又、本人に合わせたパットの使用を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に氷水・入居者によっては牛乳を提供、体操・掃除への参加を促し体を動かす様取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望や外出等に合わせた時間帯での入浴を支援、入浴拒否の方にも言葉かけ・対応の工夫をしている。季節感を楽しめる入浴の雰囲気作りを検討している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時は自由に居室で休んで頂いている。電気・テレビを付けたままが安心できる方は入眠後テレビを消す配慮をしている。居室の温度調節にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を失くすため朝・昼・夕・夜と判りやすくプレートを付け工夫をしている。又、頓服服用時は血圧測定し状態の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割意識・意欲を理解し、お手伝いをして頂いたり趣味活動の時間を楽しんで頂ける支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々のニーズに応じた外出支援をしているが、日常とまではいかず、外出の希望を口にしない入居者さんは支援の手が行き届いていない状況がある。		
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望があればおこずかいを手渡し自販機でのジュース購入、外出時には買い物で支払いが出来るような支援をしている。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話を使用していただき、家族からの手紙等は少ないが希望があれば支援している。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態に合わせた席の配置や椅子等の高さの合わない方にはステップ台を用意して安定して座って頂いている。温度調整はこまめに行ったり、乾燥する時期には加湿器を置き乾燥を防いでいる。		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人と近い席にし仲良く手をつないで過ごして頂いたり。廊下や玄関に椅子を置き1人になれたり夏はテラスに椅子を置き入居者同士会話され過ごされている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からなじみの家具を居室に置いたり、趣味の鉢植えや花を置いたり家族の写真を飾るなど思い思いに居心地良く過ごされている。		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を忘れてしまう方には、分かりやすく矢印や個別の表札を付けたトイレや浴室等にも目印を付けている。背の低い方はベッドの高さを下げて安全対策にも努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームやすらぎ

作成日: 平成 25年 2 月 6 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1 13 25 27 31 32	入居者対応や業務内容での情報伝達が周知されていない事がある。	1. 毎日の仕事の中で、スタッフが不明な点を あいまいにせずきちんと確認し把握する事ができる。	1. 尚ユニット別に情報伝達用のノートを作り、出勤時は必ず内容確認する。 介護記録は、漏れなくわかりやすく記載していく。 ノートや記録の記載内容で不明な点は記載者やわかる人に訊いていく。	12ヶ月
2	6 7 13 36 38	馴れ合いによる不適切な言葉がけや対応、業務に追われてのスピーチロックが出てしまうことがある。	1. スタッフの気づきを話し合うことができる。 2. 自分の対応について振り返る事ができる。	1. 不適切なケア対応について、ミーティングの中で月ごとの目標を立て、取り組みについて結果を話し合っていく。 2. 身体拘束廃止委員会からの振り返りシートを活用し、定期的にチェックをしていく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。